全国障害者問題研究会の研究誌

障害者問題研究

第 50 巻 第 4 号

Vol.50
No.4

特集 子どもの発達保障と遊び

障害者問題研究 50 巻 4 号を読む会

■話題提供■

●**服部敬子**さん（京都府立大学）
子どもの発達保障と遊び

●**瀬野由衣**さん（愛知県立大学）
表象の世界で遊ぶ 2～3 歳児たち
――その魅力と価値に着目して

●司会・進行　河原紀子・川地亜弥子

■参加者の意見交流■

日時　４月２６日（水）19 時～21 時

■zoom ミーティングによる開催

〇参加費無料。お手元に当該号をご用意ください。
〇読む会参加申し込みフォーム（右）から注文できます。

参加申込

https://forms.gle/nkemgJoCdV4hsi456

問い合わせ　全障研事務局　info@nginet.or.jp

特集にあたって

川地亜弥子（本誌編集委員）

本誌はこのたび，人間らしい生活を営むうえで必要不可欠であり独自の文化をもつことに着目して，「遊び」「食」「集団」のそれぞれについて子どもの発達と現代の課題との関連で考察することを目的とする一連の特集を企画している．

格差の拡大と分断が進む現代日本社会においてこの 3 つは貧困化の危機にあるが，生活のベースとして自明視されたり，子どもの自発性や主体性の重視という方針のもとに意図的な「指導」が避けられたりする傾向が少なからずある．他方，子どもの生活におけるこれらの重要性を認識するがゆえに，大人にとって都合よく「管理」するための（本来の「指導」とは言えない）意図的な働きかけが子どもの人格発達に負の作用をもたらしている現状もある．そうした教育的意図に敏感で意見表明が難しい子どもたちの場合はとくに，そうした作用が行動上の「問題」というかたちで現れやすく悪循環に陥りやすいと考えられる．

そこで，今あらためて，「遊び」「食」「集団」について，発達的根拠を示しつつ子どもたちに保障したい教育的発達の源泉のあり方を考えたい．

今号ではその第一弾として，「子どもの発達保障と遊び」をテーマとし，周りの人と共に自らの生きる世界を生み出し，夢中になって楽しむ遊びのよさを味わうことができる論考をお寄せいただいた．

服部敬子は，子どもの遊びについて，子どもの権利宣言で明確に権利として位置付けられた一方，現代の日本におけるその権利保障の不十分さを指摘している．「それしかない」「しかたない」から「遊んで」いる状況を脱し，安心して楽しく遊ぶ権利を保障するための方策を提起している．

瀬野由衣は，2〜3 歳児の遊びから，その表象世界に迫っている．子どもたちが融けこむ表象世界が，日常生活の文脈で生まれ（生み出され）ていることの重要性を指摘している．

富田昌平は，鬼や河童などの架空の存在を本当にいると信じてやりとりを楽しむ想像的探険遊びに注目し，人間発達にとっての意味に加え，不寛容な

時代における重要性について言及している．

田中浩司は，遊びを通した学びについて所属感の観点から分析している．「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」にも言及しながら，集団遊びで形成される所属感と協同性の関係を考察している．

3つの実践報告では，指導者や子ども同士の信頼関係，集団の中でのやりとり，遊びがふくらんで展開していく様子が生き生きと描かれている．

市原こころは，2歳児クラスの子どもたちが，どのように大好きなごみ収集車の世界で遊びを広げ，仲間関係を深めたのかを描いた．浦嶋真由美は，小学部の実践から「遊びの指導」における子どもの主体性，教師の指導のあり方について鋭く提起している．小川諒裕は，放課後等デイサービスでの，大人から周りの仲間へと関係が広がり遊びが展開した実践を報告している．同時期に表れた問題行動への関わりとその考察も示唆深い．

遊びの「純粋にそこから得られる楽しみと喜び」（服部論考）を，すべての人が享受することを保障するための理論的・実践的提起として，本誌が活用されることを願っている．

（かわじ　あやこ　神戸大学）

■この号のもくじ■

特集にあたって　川地亜弥子　1
子どもの発達保障と遊び●服部敬子　2
表象の世界で遊ぶ2～3歳児たち――その魅力と価値に着目して●瀬野由衣　10
保育における想像的探険遊びと子どもの発達●富田昌平　18
集団遊びと幼児期の学び――所属感からの検討●田中浩司　26
実践報告
保育園2歳児クラスの実践　ごみ収集車にあこがれて●市原こころ　34
小学部肢体不自由クラスの【遊びの指導】　「先生，ちがう！」に気づかされて●浦嶋真由美　46
放課後等デイサービスの実践　一人の世界から、「なかま」といる世界へ●小川諒裕　40
連載　実践に学ぶ
小学校教師の実践　私の実践をつくりだしたもの　高橋翔吾　52
【高橋実践に学ぶ】荒川　智　58
入所施設の高齢期の実践　Aさんの願いをさぐり暮らしを支える　清水千智　60
【清水実践に学ぶ】白石恵理子　66
連載　ワイドアングル
NIF（Needs and Ideas Forum）の取り組み　小野栄一・井上　淳　68
動　　向
通級による指導の現状と論点　越野和之　73

●読む会へのおさそい●

遊びは、人間らしい生活、子どもが人として育ちゆくあゆみにおいて、かけがえのない大切なものです。この特集をもとにしながら、ゆたかな遊びの世界を子どもたちに保障する実践、その裏付けとなる知見について、おおいに学び、語り合いたいと思います。

子どもたちが手応えを感じ、夢中になる遊びはどのようなものでしょうか。自由が保障され、逸脱が許容される中でこそ、遊び心は開花し、豊かな遊びが展開されます。その中でこそ遊びの発達的意義も確認することができるでしょう。けれども今、遊びの世界は社会や大人の都合のよいものに管理され、やせほそらされ、貧しくなっていないでしょうか。子どもの発達を保障するための手立てや指導がつくされず、遊べないままに放置されてはいないでしょうか。サービスとして購入し消費するものとなり、私たちの手から奪われてしまっている遊びを、取り戻す営みが求められています。

●読む会はオンラインリモートです

『障害者問題研究』は、全障研の研究誌として、毎号、特集はじめ発達保障実践を深めていくための記事を掲載しています。全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場に集い、学び合い、語り合います。

●シリーズ企画「遊び」「食」「集団」

人間らしい生活を営むうえで必要不可欠であり、独自の文化を持つことに着目して、これらのテーマで子どもの発達と現代の課題について考察することを目的とする一連の特集を企画しました。今回は、その第１弾「遊び」の特集です。

お求めは

全障研出版部
新宿区西早稲田 2－15－10 西早稲田関口ビル４階
電話（03）5285－2601・FAX（03）5285－2603・nginet.or.jp